

## シジュウカラガン(カモ科) 全長 67センチ

3月の野鳥講座も大湊村で行いました。

今回の収穫はオオワシを再び観察できたこと、承水路の氷上でオジロワシが見つかったこと、そして1000羽のシジュウカラガンを観察できたことです。

7日はやや風が強く、時折り吹雪に見舞われるなど決していい天気とはいええない1日でした。ただ運がいいのか、観察場所に到着するとパッと陽が差し込み、風も和ぐなどいい天気になったのです。

大湊村中心部にほど近い採草地に、シジュウカラガンの群れがいるとの情報がありました。バスで農道を進んでいくと、150mほどの距離で見つかりました。手前の集団と、少し離れた集団を加えると約 1000羽の大群です。

私の今までの経験では最大の数で、少し興奮してしまいました。シジュウカラガンの周辺には、マガンとヒシクイが数千羽も降り立ち餌を漁っています。



シジュウカラガン、採草地で食事中です。(2017-3-7)

大集団の野鳥は大変に神経質で、驚かさないうるに心がけなければなりません。バスから20名もぞろぞろと降りると危ないと察知され、飛び去ってしまうかもしれません。距離も近いので、バスの中からの観察です。

観察を始めて10分後、ハクガン 13羽がシジュウカラガンの群れの中に降り立ったのです。超希少種ハクガンとシジュウカラガンが同時に眺めることが出来、歓声があがりました。



シジュウカラガン、この集団(500羽)の奥にも、同じ数の集団がありました。

観察を初めて 40 分ほどでお昼の時間になってしまい、この場所を一旦切り上げることにになります。

食事後再び同じ場所に戻ったら、そこには数千羽もいたであろうシジュウカラガン、ハクガン、マガン、ヒシクイが一羽も見当たりません。集団で行動する野鳥はちょっとしたことがきっかけで、一斉に飛び去ってしまうことが間々あります。

こうしたことから、午前中に見られたことは幸運であったとしか言えません。

最後は東部承水路です。

到着した時は猛吹雪となり、視界は100m ほどです。双眼鏡で覗くと、粉雪の切れ間から氷上にオジロワシらしきものが目に入りました。バスを対岸の農道に移動し、最短距離まで進めます。



旧若美町のオオワシ。今回は後姿を撮影できました。

ここでも現場に到着すると吹雪が収まりかけ、肉眼でもハッキリと分ります。30 倍の望遠鏡で見ると、大きな嘴と鋭い目つきまでが手に取るように迫力が伝わります。

帰りの時間も迫り観察会はここで切り上げです。

バスを発車してまもなく、運転手さんが叫びました。「あっ、あれは何だ？」



氷の上から飛び立つオジロワシ。足指をパッと開いています。



3月11日撮影した大仙市のオジロワシ。20日現在まだ2羽が滞在しています。



バスのすぐ横 5mの堤防上に1羽のオジロワシが悠然と佇んでいたのです。バスを止めても直ぐには逃げません。30秒間ぐらい経ったでしょうか、じっくりと飛び去りました。

間近で見るオジロワシはやはり大きかった。一同、感動の観察会となりました。



皆さんが、くいるように見つめているのは、シジウカラガンとハクガンです。希少種2種を同時に見る幸運に、バス内は興奮状態でした。